

仙巖園に龍が棲まう

1 仙鯉魚石

桜島見るだけじゃなく

仙巖園はもちろん桜島のビュースポット！御殿や御殿前のお庭がメインなのかも。

ですが、見どころはまだ奥にあります。

曲水の庭は見たことあるし猫神社も楽しみにしてる(*'▽')♪奥まで行ったことがあるという方も、ちょっと知らないかもしれない“石”たちのお話をします。

たぶん？きっと！鯉魚石！

御殿前の庭から離れ川にかかる橋を渡りどんどん進んでいくと、右手に見えるのが曲水の庭からの流れが落ちる池「瓢池（ひさごいけ）」。

滝の水が落ちるあたりに周りとは異なる表情ある石が。これは・・・？

「鯉魚石（りぎょせき）」では？！注目するとますます鯉の頭に見える。



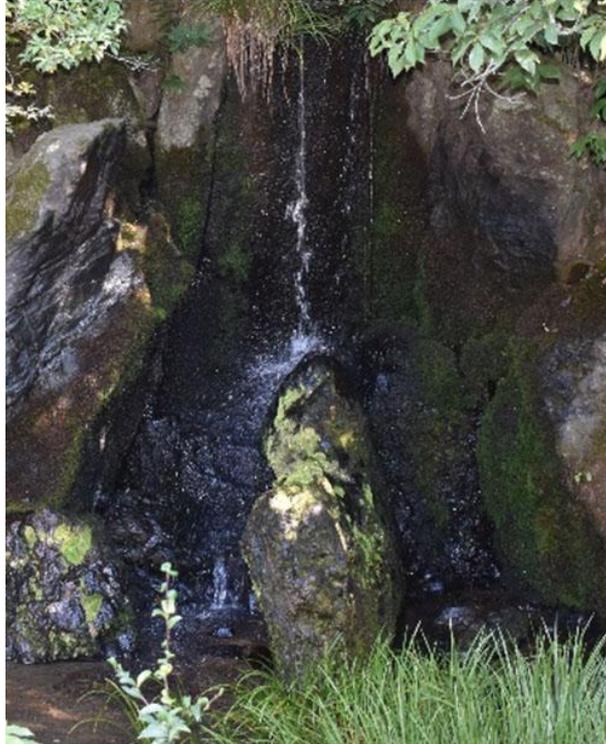
仙巖園 鯉魚石



仙巖園 鯉魚石（拡大図）

この水落石が鯉魚石だとすると滝石組は「龍門瀑（りゅうもんぼく）」になります。鯉が滝を登ると龍になるという中国の故事「登竜門」にちなみ石を鯉に見立てる。

京都金閣寺の鹿苑寺庭園にあるものが有名で形状がよく似ています。



金閣寺 鯉魚石 京都

金閣寺の「龍門滝」

—この滝は2.3メートルもの高さを一段落としにしたもので、龍門の滝を鯉が登りきると龍に化すといわれる中国の故事登竜門に因んだ鯉魚石（リギョセキ）が置かれています。いままさに跳ね上がらんとする龍の姿が、滝壺の所に斜めに傾いた動きのある石で表されています。（金閣寺ウェブサイト）—

滝の空洞

龍門瀑のつくり

京都天龍寺の曹源池庭園にある龍門瀑を見てみます。

夢窓疎石が初めて作庭したといわれる天龍寺の鯉魚石は滝の下ではなく途中、流れの横にある珍しいつくりです。

三段目の滝の、水落石の裏側に空洞を設けて落水の音を反響させる工夫がされています。その空洞の中には大きな黒石が配置されています。

仙巖園でもこの“落水の音を反響させる工夫”、水落石の裏側に空洞が設けられています。



天龍寺 龍門瀑 京都仙巖園

天龍寺の「龍門の滝」

一方丈からみた曹源池中央正面には2枚の巨岩を立て龍門の滝とする。龍門の滝とは中国の登龍門の故事になぞらえたもので、鯉魚石を配するが、通常の鯉魚石が滝の下に置かれているのに対し、この石は滝の流れの横に置かれており、龍と化す途中の姿を現す珍しい姿をしている。（天龍寺ウェブサイト）ー



仙巖園 滝裏の空洞

仏さま

仙巖園の水落石の裏側、空洞に目を凝らしてください。奥に何か？何かいる？

これは？！「石仏」！

気づいている方は少ないかも。ぜひぜひ注目して見つけてみてください(*'▽')



暗い空洞の奥に仏さまが見えます。

想像を膨らませると中国留学の経験のある僧が龍門窟の印象を取り入れたのかもしれませんが。

廃仏毀釈の時に石仏を隠したという話もあります。

じーっと集中して見えたときには感激です(*'▽')！

どうしてそこに？この滝石組をつくった人が？あとから誰かが置いたのか？思いをめぐらせてみてください。

2 三橋石組

虎溪三笑

—中国の故事。廬山の慧遠法師は、虎溪（谷）を越えて外出しない誓いを立てていたが、儒者陶淵明と道士陸修静とが訪れたとき、見送りに談笑しすぎて虎溪の石橋を渡ってしまい、三人で大笑いしたという話。史実ではないが儒仏道三教の親和を表した話で、画題にもなっている。（世界宗教用語大事典より）—

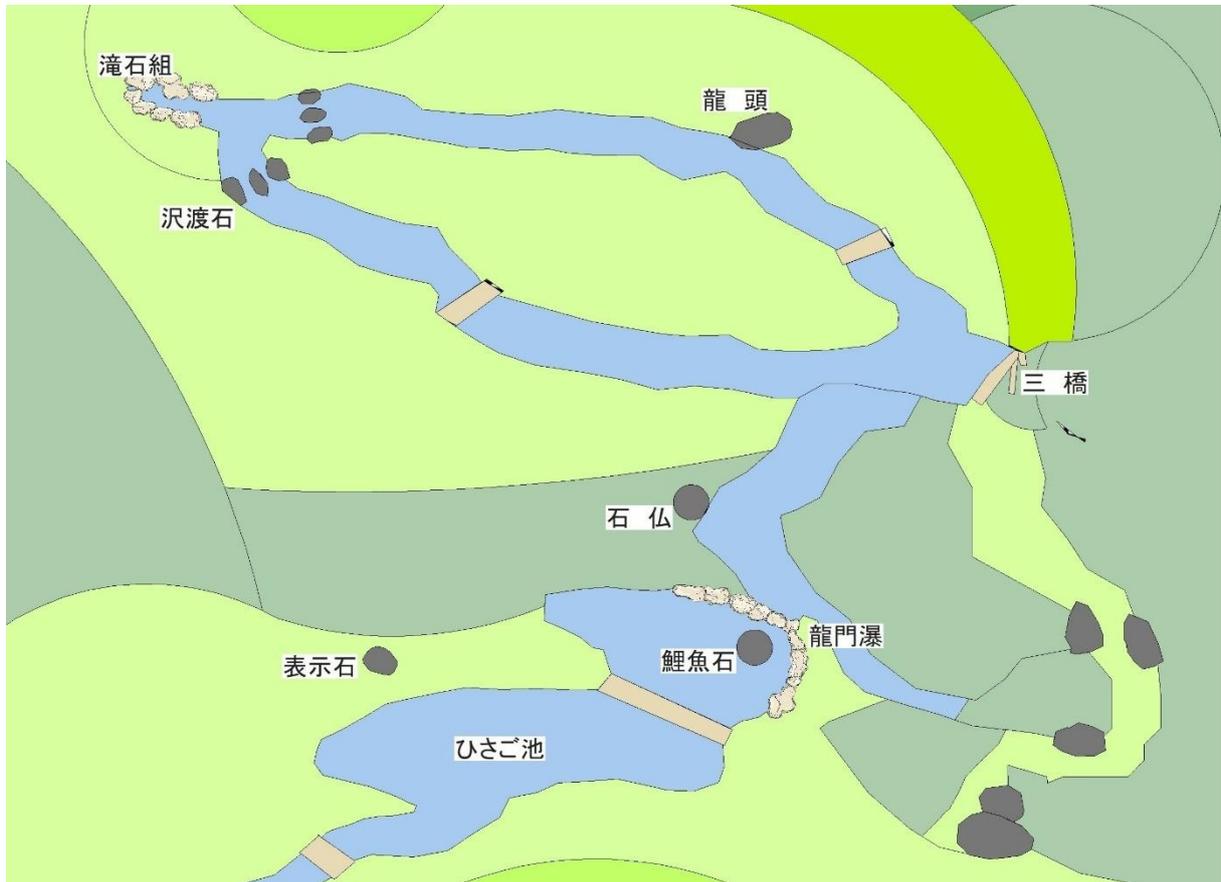
曲水の庭に

瓢池から右手へ険しい山道を登っていくと曲水の庭のある所へたどり着きます。手前には枯れた味のある三枚一組の石橋が。



仙巖園 三橋 鹿児島市

造園で「三橋」といえば天龍寺の龍門瀑下に架かる三橋。中国の故事「虎溪三笑」にちなみ、三石が儒教、仏教、道教の三宗を表し三教の合一や超越を意味するとも言われます。虎溪三笑の故事を思い浮かべると・・・仙巖園の三橋は、確かに位置的には険しい山道と優雅な流れの境界にあります。



仙巖園 【瓢池から曲水の庭 概略図】
曲水の庭の流れは円形になっているのが特徴のひとつ

三橋石組

三橋に注目してみると、石の長さが一つ一つ異なり手前が長い・・・遠くは短い・・・遠近法を使っているのでは!!! 驚き!

残念ながら石の材料は鹿児島で採れたものではないようです。三橋石組を強調するためにあえて他所の石を使用した可能性も。三橋石組は、島津氏と関係の深い玉里庭園・探勝園（鹿児島市照国町）にもそれぞれ趣ある橋が架かっています。

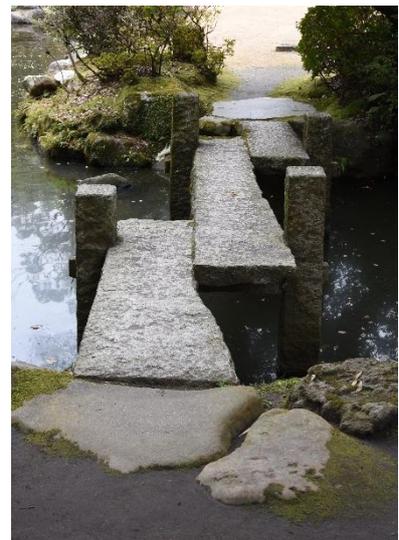




天龍寺 三橋 京都



玉里庭園 三橋 鹿児島市



探勝園 三橋 鹿児島市照国町

3 龍棲江

仙巖園 曲水の庭

一名勝「仙巖園」の曲水の庭は、1959年に発掘され、現存する国内の曲水の庭の遺構の中でも最大のもので、建造当時の様子が良好に保存されている貴重な文化財として高く評価されています。（鹿児島県観光サイト「かごしまの旅」より）

かなりワイルド

三橋を渡って曲水の庭に入っていくと、ごつごつとした石にちょっとびっくり。雅な曲水の宴というより野趣味ある庭という雰囲気。



仙巖園 曲水の庭

その中でもひととき目立つ大きな石。

流れの様子からはこの大きな石は反対側、対岸にあったほうがバランスよさそう。不釣り合いな感じ。なぜここに？

何かに使う？

この平らな感じ、曲水の宴で何か用途があるのでしょうか？

曲水の宴の写真など見ても職員の方に伺っても、そういうことは無い様子。

何度もじーっと見ていると蛇の頭のようにも見える角度が？



仙巖園 曲水の庭

お！？龍門瀑と関連あるとしたら？龍の頭かも？

流れがふたつ？

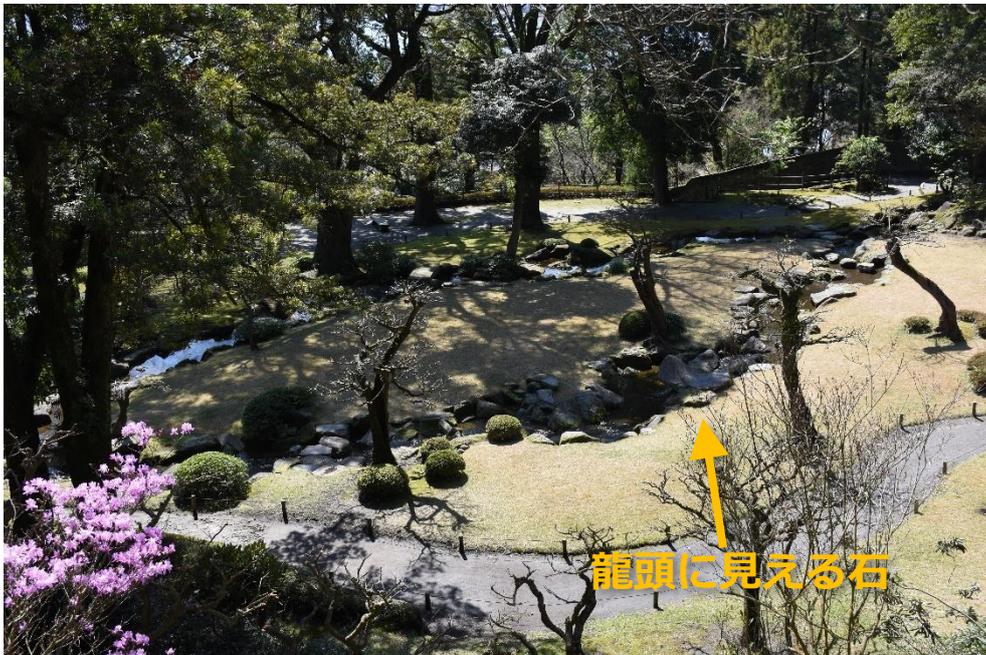
上流滝からの流れが二つに分かれ、大きくまわって円を描くように一つになり龍門瀑の滝口へ。全体が円形になっている曲水の庭の流れ。（【瓢池から曲水の庭 概略図】参照）

流れが龍の体、この目立つ大きな石は龍頭。曲水の流れは龍がすまう「龍棲江」？

この円になったかたちは禅宗寺院にある天井画「雲龍図」に似ています。この曲水は雲龍図をモチーフにしているのか。

そしてもう一つ、曲水の宴の流れは一筋でいいのでは。この左右の流れは両方使われることもあったのでしょうか。

紅白に分かれて歌競べ・・・島津氏はそんな催しも楽しんでいたかも？想像は尽きません！



仙巖園 曲水の庭全景 鹿児島市



参考 雲龍図：天井画 滋賀県日野町信楽院（日野町観光協会ウェブサイトより）

4 昇龍壁

仙巖園 千尋巖（せんじんがん）

望嶽楼から裏山をのぞむと、岩壁に「千尋巖」の文字が綺麗にみられます。江戸時代後期に約3,900名の人員で3ヶ月彫った文字で、全長は11m。（仙巖園ウェブサイトより）

千尋巖



全長11mは“鎌倉大仏の高さ”くらい！

仙巖園では海に向かえば桜島、裏山に向かえば「千尋巖（せんじんがん）」。知らないと目にすることなく帰られてしまう？「千尋巖」ぜひ見つけてください！

“千尋”は一尋の千倍、転じて非常に長いこと、測り知れないほど深いこと。“巖”はごつごつと険しい岩山。

曲水の庭からも山を見上げると中腹の岩壁にその字を見ることができます。この岩壁は江戸時代から“昇龍壁”と呼ばれていたそうです。



仙巖園 龍頭に見える石越しに臨む「千尋巖」

龍棲江

龍門瀑で鯉が龍となり、曲水の庭の流れに棲み、やがて昇竜壁から天に昇る姿を表すとしたら・・・物語がつながります。

そしてあの目立つ大きな石。龍頭が流れの内側を向いているようで違和感。千尋巖のほうを向いて今まさに昇らんとする姿勢のほうが勇ましく馴染むような気が。

しかしもう一度よく見てみると、桜島のほうを向いているのでは！？現在は樹木に隠れていますが海に目を向けると、龍は桜島を向いているようにも見えます。

見る角度でいろんな表情を見せる不思議な石です。



仙巖園 曲水の庭から龍頭にみえる石越しに臨む桜島

5 庭園の名は・・・

沢渡石にも注目

曲水の庭にある「沢渡石」は、仙巖園の沢渡りの中でも特に優雅な感じ。特に見てほしいところですよ！

角の鋭い沢渡石と角の丸い沢渡石を配して、溪流から里山の穏やかな流れへと変化を表現しています。沢渡りを渡る導線がジグザグなことから“八つ橋”を表現していると思われます。

清澄庭園（東京都江東区）にある八つ橋の表現と似ているようです。



沢渡石 仙巖園 鹿児島市



八つ橋 清澄庭園 東京都

「伊勢物語」にちなみ、杜若を添えて植えることが多いそうです。

庭園の名は・・・

御殿側から曲水の庭へ入るルートは「三橋」以外にも。

別なルートの入り口の、道の真ん中に気になる石が。（ほんとに真ん中にドンと(*△*)!）

何か彫られていたような跡があります。

これは庭園名が彫られていたのでは？なんという名だったのでしょうか。

もしもどなたかご存じでしたらぜひご一報を!!!



道の真ん中にある石



何か彫られていた跡
庭園の名は・・・判読できたら！